科目名（英）	心理学（発達・臨床） （ Psychology ）	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	久保田　康文
学科・専攻	視能訓練士科1年制	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	後期 土曜日　3時限

【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】

臨床心理士・公認心理師として医療現場や教育現場での経験があり、特に、メンタルヘルスや健康心理学・障害児心理学に関して講義をしてきた教員が、現在のストレス社会に対して、様々な対処方法を習得する授業を行う。発達段階を学び子どもの成長過程を学び、また、心理テストを通して自分自身の心理状態を知る学習する。より実践的な心理学を学び、日常生活に役立てられるよう教授していく。

【到達目標】

自分自身のストレス状態を説明できる。そして、自分自身のストレスに対して、セルフコントロールができるようになる。
自分のパーソナリティを知り、上手なコミュニケーションを習得し、円滑な人間関係を築くことができるようになる。
発達段階を学び、家族や個人の心の成長に合わせた支援ができるようになる。

【使用教科書・教材・参考書】

使用図書はありません、パワーポイントを使用して授業を行います。Teamsにアップしますので、タブレットを忘れず持ってきてください。配布資料は適宜渡します。

【授業外における学習】

授業で学んだことを復習し、生活の中で実践し、検証してみる。

回	授業概要
1	【授業単元】オリエンテーション・発達の概念 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 この授業の進め方について説明できる。 発達とは何かを説明できる。
2	【授業単元】発達段階 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 人の発達段階を説明できる。 それぞれの発達段階に合わせた支援について説明できる。
3	【授業単元】障害の概念 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 障害とは何かについて説明できる。 ICIDH、ICFについて説明できる。
4	【授業単元】障害 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 様々な障害について説明できる。 主に代表できな神経発達症、不安症や抑うつ症について説明できる。
5	【授業単元】欲求・動機づけ 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 マズローの欲求段階説を説明できる。 主な動機づけについて説明できる。
6	【授業単元】ヒューマンエラー 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 ミスが生きる仕組みについて説明できる。 ミスが起きないための工夫について説明できる。
7	【授業単元】ストレス 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 ストレスについて説明できる ストレスの心理・生理学的影響について説明できる。
8	【授業単元】中テスト・ストレスコーピング 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 これまでの内容が定着している。 ストレスに対処するための工夫について説明できる。
9	【授業単元】人格 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 心理テストを行い、自分の性格について説明できる。
10	【授業単元】依存 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 人が依存してしまう仕組みについて説明できる。 依存症の心理的背景について説明できる。
11	【授業単元】心理的支援1 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 要項な対人関係の作り方について説明できる。 カウンセリングについて基本的な態度について説明できる。
12	【授業単元】心理学的支援2 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 主な心理療法についてその特徴や支援に説明できる。
13	【授業単元】子どもと家族の理解 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 現代の家族について説明できる。 子どもを取り巻く課題について説明できる。 ジェノグラムやエコマップを作ることができる。
14	【授業単元】子どもと家族への支援 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 世代間連鎖について説明できる。 子どもと親とを繋ぐ支援について説明できる。
15	【授業単元】定期試験 【授業形態】 【到達目標】 これまで習った内容を説明できる。 これまで習ったことをどのように活かすことができるか自分の考えを説明できる。

【評価方法について】

"講義全体を100点満点とし、定期試験を60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。
・試験は筆記試験で行う。
・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト（8回目の授業で実施）は15点満点とする。その合計（80点満点）の1／2の点数（小数点以下切り上げ）を小テストの合計点とする。"

【特記事項】

たくさん話し合いや質問をして学びを深めていきましょう！

科目名（英）	人体の構造と機能 (Structure and Function of the Human Body)	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	桑原　俊男
学科・コース	視能訓練士科1年制	授業形態	講義	総時間（単位）	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	後期 水曜日　3・4時限

【授業の学習内容と心構え】
前回に行った講義内容をノート・教科書で復習してください。毎回の復習勉強が学力向上の近道ですし、国家試験合格の秘訣です。
復習する時間は、毎回約20～30分程度で充分です。
【講師経歴】
東京慈恵会医科大学 解剖学講座（肉眼・神経）教員 として、医学部学生の解剖実習講義を担当。 同付属看護専門学校で解剖生理学の講義を担当。

【到達目標】
人体の構造を学ぶ「解剖学」と機能（働き・役割り）について学ぶ「生理学」を融合させた教科が「解剖・生理学」です。体について、学びの入り口になる学問です。病気は健康な体がバランスを崩すことです。正常な体がどのようにしてバランスを保っているかを理解しないと病気を理解することが出来ません。医学の基礎学問ですからしっかり学びましょう。

【使用教科書・教材・参考書】
解剖生理学（人体の構造と機能） 医学書院

【授業外における学習】
講義終了後に復習を必ず行う

回	授業概要	回	授業概要
1	【授業単元】 個体（生体）の階層性について 【授業形態】 講義 【到達目標】 人体（個体）を構成しているものは何か。 実は約37兆個の細胞が集まると人体が出来上がります。 ではその細胞について詳しき確認してゆきましょう。	9	【授業単元】 消化器系 （消化と吸収について） 【授業形態】 講義 【到達目標】 栄養素とは何か、消化とは何か、吸収とは何か、を学びます。
2	【授業単元】 細胞の構造と機能 【授業形態】 講義 【到達目標】 細胞膜の材料が何で出来ているか。細胞の中はどの様なものがありどの様な働きをしているか理解しましょう。	10	【授業単元】 泌尿器系 （腎臓の機能） 【授業形態】 講義 【到達目標】 尿がどの様な仕組みで出来上がるか学びましょう。
3	【授業単元】 体液について 【授業形態】 講義 【到達目標】 体液（体の中の水分）の量はどれ位あるか。 体液の中にどの様なものが溶けているか。なぜ体液が必要なのか理解します。	11	【授業単元】　内分泌系 （ホルモン） その1 【授業形態】 講義 【到達目標】 ホルモンとは何か。ホルモンが体に及ぼす効果について学びましょう。
4	【授業単元】 血液について 【授業形態】 講義 【到達目標】 血液の量、血液を構成する要素、血液の機能について理解しましょう。	12	【授業単元】 内分泌系 （ホルモン） その2 【授業形態】 講義 【到達目標】 ホルモンがどこで作られ、どの様にして分泌されるか。
5	【授業単元】 酸塩基平衡と呼吸器系 【授業形態】 講義 【到達目標】 体内のバランスを整えるメカニズムについて理解しましょう。	13	【授業単元】 神経系（中枢神経系） 【授業形態】 講義 【到達目標】 神経系の構成と神経とは何か。興奮の伝達メカニズム。大脳の機能局在
6	【授業単元】 循環器系 （心臓・血管） その1 【授業形態】 講義 【到達目標】 心臓が体のどこにありどの様な働きをしているか。血管が体のどこを走行しているか詳しく学なび魔性	14	【授業単元】 神経系（末梢神経系：自律神経） 【授業形態】 講義 【到達目標】 自律神経の構成と支配領域。生体への反応
7	【授業単元】 循環器系 （心臓・血管） その2 【授業形態】 講義 【到達目標】 血液の流れ方について理解しましょう。 血管は大きく分けて動脈と静脈に分かれます。動脈と静脈がどこにあるか理解します。	15	【授業単元】 定期試験、解説 【授業形態】 試験 【到達目標】 脳神経の構成と機能。視覚領域に関わる脳神経の機能
8	【授業単元】 中間試験、解説 【授業形態】 試験 【到達目標】 第1回目の講義から第7回目の講義で学んだことについて皆さんがどの程度理解したか確認するために試験を行います。試験終了後には問題の解説を行います。		

【特記事項】

【評価について】
中間試験（40点満点）
実施方法： 選択式問題（5問程度出題）
定期試験（60点満点）
実施方法： 国家試験に準ずる筆記試験問題

科目名（英）	臨床関連医学 (Medicine)	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	脇 雅子
学科・コース	視能訓練士科1年制	授業形態	講義	総時間（単位）	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	後期 月曜日2限

【授業の学習内容と心構え】

医学博士。長年医学部での研究と教育に携わる。現在は滋慶学園並びに医療系専門学校で基礎医学全般を教授。視能訓練士として必要な医学的、科学的知識を習得し、病気との関連も身に着け、将来的に現場で生かせるようにする。

【到達目標】

【科目目標（一般目標）】 人体を構成する器官の構造と働きを基本とし、医学的知識を習得する上での基礎・臨床知識を幅広く身に着ける。

【使用教科書】 系統看護学講座　病態生理学　医学書院

【授業外における学習】

系統		回	授業概要
1	【授業単元】循環の仕組みと病態生理 【授業形態】講義 【到達目標】心臓のポンプ機能と病態生理を学び理解する	9	【授業単元】 消化・吸収と病態生理 【授業形態】講義 【到達目標】租借・嚥下、胃・腸管の障害、消化吸収の障害を理解する
2	【授業単元】 循環の仕組みと病態生理 【授業形態】講義 【到達目標】心臓のポンプ機能と病態生理を学び理解する	10	【授業単元】 消化・吸収と病態生理 【授業形態】講義 【到達目標】肝臓の機能と障害を理解する
3	【授業単元】循環の仕組みと病態生理 【授業形態】 講義 【到達目標】血圧調節。末梢循環の仕組みと病態生理を理解する	11	【授業単元】消化・吸収と病態生理 【授業形態】講義 【到達目標】胆汁産生、膵臓の機能障害
4	【授業単元】 心臓のポンプ機能と病態生理 【授業形態】講義 【到達目標】血圧調節、末梢循環の仕組みと病態生理wお理解する	12	【授業単元】腎・泌尿器の仕組みと病態生理 【授業形態】 講義 【到達目標】腎機能、泌尿器の障害を理解する
5	【授業単元】呼吸の仕組みと病態生理 【授業形態】講義 【到達目標】呼吸器の機能、呼吸困難、呼吸不全を理解する	13	【授業単元】 脳、神経の働きと病態生理 【授業形態】 講義 【到達目標】脳血管障害、脳腫瘍などを理解する
6	【授業単元】 呼吸の仕組みと病態生理 【授業形態】講義 【到達目標】呼吸器系の防御機構の障害、換気障害を理解する	14	【授業単元】 脳、神経の働きと病態生理 【授業形態】講義 【到達目標】運動制御の障害などを理解する
7	【授業単元】呼吸の仕組みと病態生理 【授業形態】講義 【到達目標】肺循環、呼吸調節の障害を理解する	15	【授業単元】 定期試験、解答解説 【授業形態】 筆記試験 【到達目標】後半の授業の理解度を確認する
8	【授業単元】 中間試験、解答解説 【授業形態】 肥大試験 【到達目標】前半の授業の理解度を確認する		

【評価について】

中間試験＋定期試験の合計が59点以下を不合格とする

【特記事項】

科目名（英）	病理学（疾病学を含む） （Pathlogy）	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	安谷屋　均
学科・専攻	視能訓練士科1年制	授業形態	講義	総時間（単位）	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 月曜日　3時限

【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】

生理学・解剖学・病理学・循環器病等を専門分野として、長きに渡り教鞭や研究を行っている医学博士を有する講師が授業を行う。授業の心構えとして、居眠りをしない・私語を慎む・携帯を操作しない等を守って授業に出席するtこと。

【到達目標】

①細胞・組織レベルで病気（疾病）が発生した原因を知る。
②病気(疾病）がどのようなしくみで人体に影響を及ぼしているかを知る。
③正常な状態と比較して病気（疾病）によりどのような変化が起きるかを知る。
　これらのことを理解・説明できる。

【使用教科書・教材・参考書】

系統看護学講座・専門基礎・病理学：医学書院

【授業外における学習】

講義中で習得した知識を参考にして、日常生活でみられるさまざまな病気の原因や予防などについて調べてみる。

回	授業概要	回	授業概要
1	【授業単元】病因・細胞・組織の損傷と修復、炎症 【授業形態】講義 【到達目標】 病気の原因（内因・外因）、公害病・医原病・職業病、細胞・組織の損傷とその原因、細胞の適応現象、細胞の死、細胞と組織の変性、組織の修復、炎症と炎症の分類について説明できる。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】
2	【授業単元】感染症・免疫 【授業形態】講義 【到達目標】 炎症、感染の成立と感染症の発病、主な感染症、免疫、アレルギーについて説明できる。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】
3	【授業単元】循環障害 【授業形態】講義 【到達目標】 浮腫、充血、うっ血、出血、血栓症、塞栓症、梗塞、高血圧どについて説明できる。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】
4	【授業単元】代謝障害 【授業形態】講義 【到達目標】 脂質代謝異常，タンパク質代謝異常，糖質代謝異常について説明できる.		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】
5	【授業単元】老化と死 【授業形態】講義 【到達目標】 個体の老化と老年症候群、老化のメカニズム、個体の死と終末期医療について説明できる。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】
6	【授業単元】先天異常と遺伝性異常 【授業形態】講義 【到達目標】 遺伝の生物学、先天異常、遺伝子の異常と疾患、選定異常・遺伝性疾患の診断と治療などについて説明できる。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】
7	【授業単元】腫瘍 【授業形態】講義 【到達目標】 腫瘍の定義、悪性腫瘍と良性腫瘍の違い、悪性腫瘍の広がりと影響（悪性腫瘍の転移など）について説明できる。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】
8	【授業単元】定期試験，解説 【授業形態】講義 【到達目標】		【評価方法について】 評価は、筆記試験で行い、定期試験100点満点で実施し，これを50点とする。

【特記事項】

科目名（英）	病理学（疾病学を含む） （ Eye Deseases ）	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	金上千佳
学科・専攻	視能訓練士科1年制	授業形態	講義	総時間（単位）	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 水曜日　1時限

【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】

近年国家試験での出題数が増加している眼疾病を眼科写真技師として25年以上携わっている講師が画像を沢山取り入れわかりやすく解説する。また蛍光眼底造影、光干渉断層計及びフォトスリットランプの基本的な読影法を教える。眼底が分かるようになると他の検査結果も理解できるようになるため、難しいと思わず楽しんでもらいたい。

【到達目標】

画像を見て何の疾患か、またその特徴は何かを引き出せるようになる。また必要な検査を考え、その結果までわかるようになる。

【使用教科書・教材・参考書】

配布資料、現代の眼科、眼科検査ガイド

【授業外における学習】

様々な疾病の画像をたくさん見る。復習をしっかりとすること

回	授業概要	回	授業概要
1	【授業単元】正常眼底を知る/眼底出血の種類及び違い 【授業形態】講義 【到達目標】 正常が分からないと異常もわからない。きちんと正常眼底を覚え、様々な眼底出血の違いを見極められるようになる。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】
2	【授業単元】蛍光眼底造影、光干渉断層計、フォトスリットランプ 【授業形態】講義 【到達目標】 蛍光眼底造影、光干渉断層計、フォトスリットランプの基本的読影法を学ぶ		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】
3	【授業単元】網膜疾患 【授業形態】講義 【到達目標】 生活習慣病による様々な眼底疾患や網膜剥離の形態を理解し、特徴を掴む		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】
4	【授業単元】黄斑疾患 【授業形態】講義 【到達目標】 近年増加している加齢黄斑変性症をはじめとする黄斑部疾患について学ぶ		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】
5	【授業単元】ぶどう膜炎 【授業形態】講義 【到達目標】 ぶどう膜炎の原因、種類を理解し、3大ぶどう膜炎についてしっかりと特徴を掴む		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】
6	【授業単元】緑内障 【授業形態】講義 【到達目標】 中途失明原因第1位である緑内障は視能訓練士として一番かかわる疾患である。国家試験でも毎年必ず出題されるので、種類のみならず視野の変化、薬理を含めてしっかりと理解する		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】
7	【授業単元】視神経乳頭疾患/腫瘍 【授業形態】講義 【到達目標】 緑内障以外の視神経に病変がある疾患の原因、検査について理解する。また、生命にもかかわる腫瘍の特徴を掴む。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】
8	【授業単元】先天及び周産期疾患 【授業形態】講義 【到達目標】 遺伝疾患や周産期の異常で生下時より眼障害を起こす疾患の原因及び特徴を掴む		【評価方法について】 出欠、授業態度、定期試験

【特記事項】

とにかく画像をたくさん見て疾病ごとの特徴的所見を覚える。国家試験では疾病問題は秒殺で解けるようになる。

科目名（英）	医学概論 （Medical Introduction ）	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	大友 一夫
学科・コース	視能訓練士科1年制	授業形態	講義	総時間（単位）	15時間 （1）	開講区分 曜日・時間	後期 水曜日 4時限

【授業の学習内容と心構え】

本講座は、院生時代の内部留学にて履修した基礎医学の履修と当校及び医療系学校での教鞭活動を通して得られた知識と経験をベースにして学生諸君に伝授すべく、多種多様な要素を駆使する医療環境と最適な患者対応策を理解させることにある。現状における医学界にあっては瞬間的で的確な判断能力を発揮できる医療従事者が必須となる学生達を育成したい。尚、本講座は医学一般論の知識が中心であり、内容的には安易な言語を用いた授業するが、授業中の活発な討論も考慮する。

【到達目標】

授業は医療の概念を理解できる。すなわち、身体的な病と精神的な病の本質を理解できる。これら両者の内面に存在する心の問題も理解できることである。 そして、医の倫理や医療の基本を理解しながら、最後に死とは何かとか、死をどのように受け止めるべきかを理解できることにある。そして、2019年から世界中に拡散しているコロナ禍の問題は、医療関係者にとって重要な役割があって、そこには感染予防と高い知識と技能力を要すると認識出来るような授業展開をしたいと思っている。

【使用教科書・教材・参考書】

PPプリント配布、国家試験問題集の履修と解説

【授業外における学習】

回	授業概要	回	授業概要
1	（授業単元）総論 【授業形態】PP講義展開 【到達目標】 （1）医学と医療の現実 （2）医学と医療従事者 （3）21世紀への道筋と課題		（授業単元） 【授業形態】 【到達目標】
2	【授業単元】医学の歴史と意義 【授業形態】PP講義展開 【到達目標】 （1）古代の医学 （2）ギリシャ医学と視点 （3）中世から現代までの医学水準と課題		（授業単元） 【授業形態】 【到達目標】
3	【授業単元】西洋医学と医療制度 【授業形態】PP講義展開 【到達目標】 （1）近代医学とその源流 （2）21世紀の医学と課題		（授業単元） 【授業形態】 【到達目標】
4	【授業単元】老化現象と身体の変化 【授業形態】PP講義展開 【到達目標】 （1）老化と加齢の特徴 （2）診断学と領域 （3）診断と主訴の重要性		（授業単元） 【授業形態】 【到達目標】
5	（授業単元）病気の治療と診断 【授業形態】PP講義展開 【到達目標】 （1）病気と治療の現状と処置 （2）治療方法と課題 （3）予防と治癒の限界と処置		（授業単元） 【授業形態】 【到達目標】
6	（授業単元）新しい医療システムと課題 【授業形態】PP講義展開 【到達目標】 （1）我が国の医療システムと仕組み （2）先端医療の罪と罰 （3）医療と保険制度の矛盾点		（授業単元） 【授業形態】 【到達目標】
7	【授業単元】眼科概論 【授業形態】PP講義展開 【到達目標】 （1）神経眼科とは （2）眼科と診断 （3）眼科疾患と特徴		（授業単元） 【授業形態】 【到達目標】
8	【授業単元】定期試験の実施と評価 【授業形態】定期試験用紙 【到達目標】 （1）定期試験の実施 ①試験の採点と評価（100点満点）		【評価について】 本講座の評価は定期試験の結果を基にして評価。

【特記事項】

ooo

科目名（英）	視覚生理学 (Visual Physiology)	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	近藤　知絵美
学科・専攻	視能訓練士科1年制	授業形態	講義	総時間（単位）	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 火曜日・水曜日　1・2時限

【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】

視能訓練士の資格を有する現場経験のある教員が、視覚生理の基礎的な知識や臨床現場についての講義を行う。
視覚生理は多くの専門用語が出てくるため、授業前の予習や復習が大事になる。実際の臨床で良く行う検査であるからこそ理解を深めて欲しい。また、幅広い範囲の学習となるため遅刻や欠席はせず授業に臨んでほしい。

【到達目標】

明るさの感覚（光覚）、色の感覚（色覚）、形の感覚（形態覚）、視覚の広がり（視野）、電気生理の原理と疾患による検査結果を説明出来る。視覚生理の単位や評価法を説明出来る。

【使用教科書・教材・参考書】

視能学、眼科検査ガイド、配布プリント

【授業外における学習】

専門用語が頻繁に出てくるため、授業内容を必ず自分で復習すること。また、あらかじめ教科書を読み予習をしてくることが望ましい。

回	授業概要	回	授業概要
1	【授業単元】 視覚生理の基礎 【授業形態】 講義 【到達目標】 視覚生理学とはどんな分野か理解する、光の単位を理解する、光の明るさの単位を理解する、形態覚の尺度を理解する		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】
2	【授業単元】 視力 【授業形態】 講義 【到達目標】 物体の形態覚を知る4つの尺度が説明できる。小数視力とlog MARの違いを説明できる。小数視力と分数視力の違いを述べることが出来る。乳幼児の視力検査法、縞視力、コントラスト感度について説明出来る。 Landolt環による視角の計算ができる。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】
3	【授業単元】 視野 【授業形態】 講義 【到達目標】 視野の意味を理解し疾患と関連づけることができる、視野異常・検査法と影響因子を述べることができる		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】
4	【授業単元】 色覚 【授業形態】 講義 【到達目標】 色の性質を理解し色覚異常の区別ができる、色覚検査の目的・測定法を説明することができる		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】
5	【授業単元】 光覚 【授業形態】 講義 【到達目標】 視細胞の名称と働きを説明できる、夜盲・昼盲をきたす疾患の特徴と種類を説明できる		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】
6	【授業単元】 電気生理学 【授業形態】 講義 【到達目標】 電気生理検査の種類と目的を述べられる、網膜電図の臨床的意義や網膜電図の検査目的・対象・方法が説明できる		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】
7	【授業単元】 電気生理学 【授業形態】 講義 【到達目標】 視覚誘発電位の臨床的意義や検査目的・対象・方法が説明できる。眼球電図の臨床的意義や検査目的・対象・方法が説明できる。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】
8	【授業単元】 定期試験、解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 学んだ内容が定着できている。		【評価方法について】 評価は筆記試験（100点満点）で行う。授業内で確認した専門的知識の理解、定着度を確認する。 評価は学則規定に準ずる。

【特記事項】

毎回小テストを行う。

科目名（英）	視器の解剖生理学 (Anatomical Physiology of Visual Organs)	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	利満　昭子
学科・コース	視能訓練士科1年制	授業形態	講義	総時間（単位）	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 火曜日　1・2時限

【授業の学習内容と心構え】
長年大学病院で臨床に携わり複数の養成校の実習生指導にも当たっている現役視能訓練士による眼疾病、眼科検査を理解する上で必要不可欠な解剖を学ぶ

毎回前回の内容を復習し小テストで確認する

【到達目標】
眼球はレンズの役目を担っているため透明部分が多い。透明度を保つための仕組みを学ぶ

【使用教科書・教材・参考書】
現代の眼科学　配布レジュメ

【授業外における学習】

回	授業概要	回	授業概要
1	【授業単元】 外眼部　前眼部 【授業形態】 講義 【到達目標】 肉眼で見える範囲　前眼部の名称	9	【授業単元】 網膜 【授業形態】 講義 【到達目標】 光を脳に伝える経路
2	【授業単元】 眼球断面図 【授業形態】 講義 【到達目標】 正しい図を描ける	10	【授業単元】 網膜　視神経　視路　眼底 【授業形態】 講義 【到達目標】 光を脳に伝える経路
3	【授業単元】 涙液　涙器　外膜（角膜　強膜） 【授業形態】 講義 【到達目標】 眼表面の役割、仕組	11	【授業単元】 外眼筋 【授業形態】 講義 【到達目標】 眼球運動を理解する
4	【授業単元】　角膜　強膜　眼瞼 【授業形態】 講義 【到達目標】 眼表面　瞼の開閉　の仕組み	12	【授業単元】 眼窩　総腱輪 【授業形態】 講義 【到達目標】 眼窩先端部　を理解する
5	【授業単元】 房水　隅角　ぶどう膜（毛様体　虹彩　脈絡膜） 【授業形態】 講義 【到達目標】 血流の多いぶどう膜の役割	13	【授業単元】 動脈　静脈 【授業形態】 講義 【到達目標】 血液循環
6	【授業単元】 水晶体　毛様体 【授業形態】 講義 【到達目標】 ピント調節の仕組み	14	【授業単元】 復習 【授業形態】 講義 【到達目標】
7	【授業単元】 中間試験　（筆記） 【授業形態】 試験 【到達目標】 毎回行う復習のための小テストを見直し試験に臨む	15	【授業単元】 定期試験（筆記）、解答解説 【授業形態】 【到達目標】
8	【授業単元】 試験問題解説　硝子体 【授業形態】 講義 【到達目標】 硝子体の解剖		

【評価について】

筆記試験　小テスト10%　　中間試験　40%　　定期試験　50%

【特記事項 前回の内容を復習してくる。毎回小テストを行う

科目名（英）	視能検査機器学 （ Ophthalmic Equipment ）	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	露無　陽子
学科・コース	視能訓練士科1年制	授業形態	講義	総時間（単位）	30時間（2）	開講区分 曜日・時間	前期 火曜・水曜

【授業の学習内容と心構え】
視能訓練士の資格を有し、現場経験と複数の養成所で教育経験のある教員が、視覚生理の基礎的な知識や臨床現場についての講義を行う。
学内実習の事前学習として、必要な眼科検査の原理と基礎知識を学ぶ。

【到達目標】
視力および屈折異常について、概念・理論・検査方法について説明ができる。
その他眼科一般検査(眼圧検査・涙液検査・三田式万能計を用いた検査)の理論・検査方法について説明が出来る。

【使用教科書・教材・参考書】
視能学、屈折異常とその矯正、生理光学ドリル基礎編

【授業外における学習】

回	授業概要
1	【授業単元】 視力と視角 【授業形態】 講義 【到達目標】 小数視力と視角の関係について説明できる。視力表の規格について説明できる。視力の判定方法と記載法を説明できる。
2	【授業単元】 視力検査、視力の種類 【授業形態】 講義 【到達目標】 0.1以下の視力の測定方法を説明できる。 様々な視力の種類と換算方法を理解している。
3	【授業単元】 屈折異常と矯正① 【授業形態】 講義 【到達目標】 屈折異常とは何か、その分類について説明できる。 屈折異常の矯正に使用するレンズについて説明できる。
4	【授業単元】 屈折異常と矯正② 【授業形態】 講義 【到達目標】 球面レンズによる矯正について説明できる。 屈折矯正における調節の介入について説明できる。
5	【授業単元】 屈折異常と矯正③ 【授業形態】 講義 【到達目標】 乱視の分類と矯正に使用するレンズ、記載法について説明できる。
6	【授業単元】 レンズ式とクロスダイアグラム① 【授業形態】 講義 【到達目標】 レンズ式とクロスダイアグラムの関係について説明できる。
7	【授業単元】 レンズ式とクロスダイアグラム②、中間試験対策 【授業形態】 講義 【到達目標】 クロスダイヤグラムとレンズ式の練習問題を解くことが出来る。
8	【授業単元】 中間試験　解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 授業前半で学んだ内容の知識が定着している。
9	【授業単元】 オートレフラクトメーター・ケラトメーター 【授業形態】 講義 【到達目標】 オートレフラクトメータ・ケラトメータの検査内容と結果の読み方について説明ができる。
10	【授業単元】 乱視の結像(スタームのコノイド)② 【授業形態】 講義　実技 【到達目標】 乱視の結像(スタームのコノイド)の概念を理解している。
11	【授業単元】 乱視の結像(スタームのコノイド)② 【授業形態】 講義 【到達目標】 乱視の結像(スタームのコノイド)の作図が出来る。
12	【授業単元】 涙液検査 【授業形態】 講義 【到達目標】 涙の役割、涙液検査の測定方法と検査目的・正常値を説明できる。
13	【授業単元】 眼圧検査 【授業形態】 講義 【到達目標】 眼圧検査の測定方法と検査目的・正常値を説明できる。
14	【授業単元】 三田式万能計を用いた検査、定期試験対策 【授業形態】 講義 【到達目標】 三田式万能計を用いた検査(瞳孔間距離・瞳孔径・眼球突出度)の測定法の説明ができる。
15	【授業単元】 定期試験、解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 後期で学んだ内容の知識が定着している。

【評価について】
評価は筆記試験で行う。授業内で確認した専門的知識の理解、定着度を確認する。
筆記試験は中間試験40点、定期試験60点（課題の提出も含む）の合計100点満点とし、その他学則規定に準ずる。

【特記事項】

科目名（英）	視覚生理学実習 (Practical Training in Visual Physiology)	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	常盤　純子 露無　陽子
学科・コース	視能訓練士科1年制	授業形態	実習	総時間（単位）	30時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 金曜日　3・4時限

【授業の学習内容と心構え】

視能訓練士として現場経験を重ねた教員が色覚検査、中心フリッカー検査、特殊視野検査、近見視力検査、調節力検査の意義・目的と各検査法についての原理・評価方法を教える。また、豊富な臨床経験を活かし、患者様への誘導・検査説明など外来で必要な患者接遇も含めて丁寧に指導する。
9月からの臨地実習に向けて、実習生として最低限必要な知識・技術・患者対応を学ぶ。自分が臨床の現場に立つ事を常に意識して、なぜ？どうして？とその理由を考えながら取り組む事が大切である。

【到達目標】

色覚検査、中心フリッカー検査、特殊視野検査、近見視力検査、調節力検査の意義・目的を学び、各検査法について原理・評価法が説明できる。
特に下記の2点を意識して取り組み、実践できる。
①臨地実習に向けて「特殊視野検査」の患者対応、検査手技、評価方法を習得する。
②視能訓練士として必要不可欠な「調節力検査」の原理、検査手技を習得する。

【使用教科書・教材・参考書】

〔教科書〕 眼科検査ガイド、視能学、現代の眼科学、眼科用語集
〔教材・参考書〕プリント資料

【授業外における学習】

お互いに患者様になりきり、外来の現場を想定した患者接遇シミュレーションを繰り返し行うこと。

回	授業概要
1	【授業単元】 2グループに分かれ以下内容を学ぶ。(2コマ交代) ① ・色覚検査 ・中心フリッカー検査 ・特殊な視野検査（アムスラー・河本中心・黒板式・フェルステル）
2	② ・近見視力検査 ・調節力検査（石原式） ・アニセイコニア 【授業形態】講義・ 実習
3	【到達目標】 各検査法の対象疾患、原理、検査説明、検査手技、評価方法が説明できる。
4	
5	
6	
7	
8	
9	【授業単元】 2グループに分かれ前回学んだ①②の実習（2コマ交代） 【授業形態】実習
10	【到達目標】 課題を通して、各検査法の説明・手技を繰り返し実習し、検査、操作ができる。
11	
12	
13	
14	
15	復習と定期試験、解説

【評価について】

〔定期試験〕(100点満点)
実施方法：筆記試験100点分で評価する。

評価は学則規定に準ずる。

【特記事項】

科目名（英）	医療と安全 （Clinical Safety）	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	宮坂　健太朗
学科・専攻	視能訓練士科1年制	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	後期 火曜日　1・2時限

【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】

看護師として病院での臨床経験、病棟内安全委員としてインシデントの集計、管理をしていた講師が授業を担当する。
医療現場で事故を未然に防ぐための方策、また事故が起こしてしまった際の対応を事例を通して学ぶ。

【到達目標】

事故が起こるメカニズムと予防方法を理解し、説明できる。
事故発生時の基本的な対応について説明できる。

【使用教科書・教材・参考書】

5日間で学ぶ医療安全　超入門

【授業外における学習】

回	授業概要
1	【授業単元】医療安全の背景 【授業形態】講義 【到達目標】 何故医療安全を学ぶのか、過去の事例から理解する。
2	【授業単元】医療安全の取り組み 【授業形態】講義 【到達目標】 国の医療安全への取り組み、医療事故の定義を理解する
3	【授業単元】事故発生のメカニズム 【授業形態】講義 【到達目標】 ヒューマンエラーについて説明できる
4	【授業単元】ヒヤリハット事例の傾向と対策 【授業形態】講義 【到達目標】 医療現場で起こりやすい事故の事例を知り、予防策について理解する
5	【授業単元】医療事故の対応 【授業形態】講義 【到達目標】 医療事故発生時の初期対応の考え方について説明できる
6	【授業単元】多重課題業務 【授業形態】講義 【到達目標】 業務が重なった時の事故発生リスクについて理解する
7	【授業単元】エラーマネジメント手法 【授業形態】講義 【到達目標】 危険予知、事故再発予防の為のトレーニング法を知る
8	【授業単元】コミュニケーション 【授業形態】講義 【到達目標】 コミュニケーションエラーが引き起こす危険と、事故の起こりやすいコミュニケーションの状態について理解する
9	【授業単元】チームとしての医療安全 【授業形態】講義 【到達目標】 組織・チームでの医療事故予防の基本的な対策を理解する。
10	【授業単元】与薬について 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 与薬の事故事例と基本対策を理解する
11	【授業単元】転倒について 【授業形態】講義 【到達目標】 与薬の事故事例と基本対策を理解する
12	【授業単元】医療事故とメンタルヘルス 【授業形態】講義 【到達目標】 事故発生時の当事者の心理について理解する
13	【授業単元】医療安全予防とICT 【授業形態】講義 【到達目標】 ITツールを利用した事故予防について、事例を通して知る
14	【授業単元】試験対策 【授業形態】講義 【到達目標】 講義のポイントについて復習できる
15	【授業単元】定期試験、解説 【授業形態】 【到達目標】 筆記試験

【評価方法について】

評価対象
筆記試験・受講態度・出欠状況

・評価配分
筆記試験：60%
受講態度・出欠状況：40%

【特記事項】

科目名（英）	公衆衛生学と関係法規（公衆衛生学） (Public Health &Related Laws and Regulations)	必修選択	必修	年次	1年次	担当教員	脇 雅子
学科・コース	視能訓練士科1年制	授業形態	講義	総時間（単位）	15時間 （1）	開講区分 曜日・時間	前期 月曜日 4限

【授業の学習内容と心構え】

医学博士,長年医学部での研究と教育に携わる。現在は滋慶学園並びに医療系専門学校で基礎医学全般を教授。公衆衛生学は暮らしに直接関わる教科であり目覚ましい進歩がある。基礎医学専門の教員による臨床でも役立つ知識を理解する。

【到達目標】

身の回りから社会全般に関与する公衆衛生学を学習・理解し視能訓練士として臨床現場で生かせる知識を習得する。

【使用教科書・教材・参考書】

わかりやすい公衆衛生学（ヌーヴェルヒロカワ）

【授業外における学習】

毎回復習し、自発的に学習に取り組む

回	授業概要
1	【授業単元】公衆衛生とは, 健康と環境 【授業形態】講義 【到達目標】 公衆衛生の概念を理解する。 整理ノートでの確認
2	【授業単元】 感染症とその予防 【授業形態】講義 【到達目標】感染症の定義・原因・予防を理解する。整理ノートでの確認
3	【授業単元】 感染症と予防、食品保健 【授業形態】講義 【到達目標】感染症の定義・原因・予防を理解する。整理ノートでの確認
4	【授業単元】生活環境の保全、医療・介護の保障制度、地域保健活動 【授業形態】講義 【到達目標】地域環境の問題点、社会福祉とサービスを理解する。整理ノートでの確認
5	【授業単元】 母子保健、学校保健 【授業形態】講義 【到達目標】母子保健・学校保健について理解する。整理ノートでの確認
6	【授業単元】生活習慣病、難病対策 【授業形態】 講義 【到達目標】活習慣病の種類・原因、難病対策を理解する。整理ノートでの確認
7	【授業単元】 精神保健福祉、産業保健 【授業形態】 講義 【到達目標】精神保健福祉、職業病を理解する。整理ノートでの確認
8	【授業単元】 定期試験、解答解説 【授業形態】 筆記試験 【到達目標】学習した公衆衛生学の理解度を確認

【評価について】

定期試験の得点 100点

【特記事項】

科目名（英）	公衆衛生学と関係法規（関係法規） (Public Health &Related Laws and Regulations)	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	上本　昌昭
学科・専攻	視能訓練士科1年制	授業形態	講義	総時間（単位）	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 金曜日 3・4時限

【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】

大学や専門学校において、法学概論や憲法といった「基礎法学」や「法解釈学」の教育に携わり、「医事法」を研究する教員が、患者の権利や利益を保護し尊重するための医療分野における法制度の知識と、現実問題へ応用できる力を習得する授業を行う。
医療従事者として業務に就くために必要な内容となるので、患者の権利や利益はいかにして守られているかを考えながら受講することを望む。授業内で習得した知識をつかって現実問題を考える演習を行うため、積極的な意見表明を求める。

【到達目標】

・視能訓練士として業務を行う際に必要とされる視能訓練士法その他の医事法規の基本概念を説明できる。

・患者のQOLを高め、社会復帰を支援する仕組み、医療制度について説明できる。

・関連する法令や制度を通じて、多職種の専門家や行政機関などと協同できる。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書は指定しない。各回レジュメを配布する。

【授業外における学習】

法制度は現実社会と密接に関連しているので、社会に関心をもち時事問題に触れること。また、授業後は専門用語の内容を反芻し、それを理解し記憶するように努める。

回	授業概要	回	授業概要
1	【授業単元】視能訓練士法に関する基礎的事項① 【授業形態】講義 【到達目標】 ・社会規範と法（規範）との違いを説明できるようになる。 ・「法律」「政令」「省令」「条例」の違いを説明できる。 ・視能訓練士法の目的、定義、各種手続きを説明できる。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】
2	【授業単元】視能訓練士法に関する基礎的事項② 【授業形態】講義 【到達目標】 ・視能訓練士になぜ法学の知識が必要か説明できる。 ・視能訓練士法の沿革や目的について説明できる。 ・視能訓練士の定義、各種手続きについて説明できる。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】
3	【授業単元】患者の権利① 【授業形態】講義 【到達目標】 ・人権保障と「患者の権利」の関係を説明できる。 ・インフォームドコンセントとは何か説明できる。 ・臓器移植法の概要を理解している。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】
4	【授業単元】患者の権利② 【授業形態】講義 【到達目標】 ・人権保障と「医療拘束」の関係を説明できる。 ・患者のプライバシーと情報保護について説明できる。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】
5	【授業単元】保健医療制度① 【授業形態】講義 【到達目標】 ・生存権の沿革と内容を説明できる。 ・保健医療制度の意義について説明できる。 ・日本の公衆衛生機構について説明できる。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】
6	【授業単元】保健医療制度② 【授業形態】講義 【到達目標】 ・医療法の内容について説明できる。 ・日本の医療提供施設の種類と機能について説明できる。 ・医療安全を確保する仕組みについて説明できる。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】
7	【授業単元】医療関連職種 【授業形態】講義 【到達目標】 ・医師法の内容を説明できる。 ・保健師助産師看護師法を説明できる。 ・その他の医療関連職種について説明できる		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】
8	【授業単元】定期試験、解答解説 【授業形態】講義 【到達目標】		【評価方法について】 評価は合計100点満点の筆記試験で行う。授業で学習した専門用語、法制度の理解、定着度を確認する。筆記試験は「語群穴埋め」と「五肢択一」の形式で実施する。評価は、学則規定に準ずる。

【特記事項】

授業においては、レジュメ内の専門用語、重要用語は必ず確認する。

科目名（英）	眼科リハビリテーション（ロービジョン） （ Visual Rehabilitation ）	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	塩田直子
		授業形態	講義・演習	総時間（単位）	15時間 （1）	開講区分	後期
学科・専攻	視能訓練士科1年制					曜日・時間	火曜日　4時限

【授業の学習内容と心構え】

視能訓練士として臨床経験のある講師が授業を担当する。ロービジョン医学基礎知識の学びを基に「考え」「参加」する授業を行いたい。症例・当事者の声を授業に組み込むことで、関心を深めたい。当事者や他職種に、授業に参加してもらい、連携を肌で感じてもらいたい。視能訓練士として、ロービジョンにこれからどうやって関わるのか。自分に何ができ、何をやりたいかを考え授業に参加して欲しい。

【到達目標】

視覚障害者の現況を理解する。身体障害者手帳の等級を理解する。
見えない、見えにくい世界を知り、視覚障害者に対する正しい知識を持ち、対等な人間関係を身につける。
視能訓練士にしかできないロービジョンケアを学び、自分には何ができるかを考えられるようになる。

【使用教科書・教材・参考書】

ロービジョンファイル（プリント）
ポイントマスター　ロービジョンケア外来ノート

【授業外における学習】

回	授業概要	回	授業概要
1	【授業単元】ガイダンス（ロービジョンとは？） 【授業形態】講義 【到達目標】 ・視覚障害の概要を知る ・見えにくい体験をし、見え方を説明できるようになる。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】
2	【授業単元】ロービジョンケアの基本 【授業形態】講義 【到達目標】 ・基本の6つのステップを理解する ・眼科の役目を知る ・ニーズを引き出す方法を理解する		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】
3	【授業単元】診断書／福祉サービスと補装具・日常生活用具 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 ・視覚障害の等級を知る。 ・症例を使って、等級を出せるようになる ・補装具と日常生活用具の違いを理解する		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】
4	【授業単元】代表的疾患・年代別ロービジョンケア 【授業形態】講義 【到達目標】 ・代表的疾患について説明できる ・疾患、年代によるアプローチの違いを理解できる		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】
5	【授業単元】視覚障害者の心理と受容 【授業形態】講義 【到達目標】 ・年代・疾患・障害による心理を理解する ・受容の過程で必要なケアを学ぶ		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】
6	【授業単元】移動・読み書き・羞明 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 ・白杖についての理解 ・拡大と倍率を求められるようになる ・遮光レンズの触れてみる		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】
7	【授業単元】連携 【授業形態】講義 【到達目標】 ・視覚障害に関わる他職種を知る ・3つのステップを理解できる ・視能訓練士としてできることを具体的に理解する		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】
8	【授業単元】復習テスト 【授業形態】 【到達目標】 ・ロービジョンケアの基本をしり、診断書、補装具などの理解を定着する		【評価について】 評価は、筆記試験にて、理解の到達度を問う。 配点 ①小テスト：単元ごとの確認テスト（合計10点） ②復習テスト：前半終了時に行う（配点40点）

【特記事項】

科目名（英）	視覚障害リハビリテーション（障害者リハ） （Rehabilitation for the visually impaired）	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	中谷　数一
学科・コース	視能訓練士科1年制	授業形態	講義	総時間（単位）	15時間（1単位）	開講区分 曜日・時間	後期

【授業の学習内容と心構え】

障害とは何か、を社会モデルで捉え、視覚障害のために、日常生活・社会生活で何らかの支障をきたす人々に対する様々な支援方法を学ぶ。支援は多領域（医学的、教育的、社会的、職業的、心理的リハなど）にまたがり、多職種連携で行われるが、その中で視能訓練士に求められる技量・役割を認識し、視覚障害者の自立、社会参加を手助けしていける視能訓練士になれるよう授業を行う。視覚障害者当事者として講師が自ら体験し学んだリアルを伝えたい。覚えるよりも考える姿勢での参加を願う。

【到達目標】

視覚障害リハビリテーションの全体像を理解し、視能訓練士が果たす役割を学び、医療から福祉への架け橋の役割を担える視能訓練士となる。
従来の視覚リハビリテーション手法に加え、デジタルロービジョンケアを学び、現場で実践展開できるようになる。
視覚障害者の心理を学び、障害受容に向けて患者や家族に寄り添える視能訓練士になる。

【使用教科書・教材・参考書】

レジメ

【授業外における学習】

なし

回	授業概要	回	授業概要
1	【授業単元】 障害とは （障害平等研修） 【授業形態】 講義と演習 【到達目標】 障害について知る。障害とは何か、どこに障害があるのか、社会モデルの視点で分析し説明することができる。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】
2	【授業単元】リハビリテーションとそれを取り巻く、法・制度とサービス 【授業形態】 講義 【到達目標】 視覚障害リハビリテーションの全体像を説明できる。また、視覚障害者の自立生活・社会参加に必要な福祉サービスや社会の合理的配慮提供について、どのような法的・制度的仕組みでサポートされているのか、場面ごとに具体的な例を挙げて説明できる。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】
3	【授業単元】 視覚障害リハビリテーション1 【授業形態】 講義 【到達目標】 視覚障害者が自立した生活を送るための課題解決策や軽減策、訓練手法（補助具の活用、代行技術の習得等）について、目的ごとに説明できる。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】
4	【授業単元】 視覚障害リハビリテーション2と点字学習 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 視覚障害者の情報保障手段である点字の成り立ち、構成を説明できる。読み書きを演習し、簡単な文章を読み、簡単な単語を点字で書くことができる。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】
5	【授業単元】視覚障害リハビリテーション3とデジタルロービジョンケア1 【授業形態】講義 【到達目標】 デジタル化が、視覚障害リハビリテーションにもたらした大きな変化やメリットを具体的な例を挙げて説明できる。デジタルディバイド問題など現状の課題と解決の方向性について説明できる。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】
6	【授業単元】 情報保障とデジタルロービジョンケア2（見えなくても使えるiPhone） 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 視覚障害は情報障害である。 情報保障（知る権利の保護と意思疎通手段の確保）を担保するために必要な配慮と方法を場面ごとに説明できる。視覚に頼らないiPhone操作を学び、視覚障害者の「分かる、できる」の可能性を広げるためにスマホが持つ可能性・潜在性を説明できる。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】
7	【授業単元】視覚障害者の心理と受容、眼科外来における合理的配慮 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 視覚障害者の心理・障害受容の過程につき、それぞれの段階の特徴を、支援者の関わり方を含めて、説明できる。 眼科外来で必要な配慮（視覚情報提供と移動介助）を、場面ごとに説明できる。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】
8	【授業単元】 定期試験、解説 【授業形態】 【到達目標】		【評価について】 定期試験（筆記試験）　100点 授業内で確認した専門的な知識の理解を確認する。 評価は学則規定に準ずる。

【特記事項】

科目名（英）	基礎視能矯正学 （ Basic Orthoptics ）	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	鈴木 まゆ
学科・コース	視能訓練士科1年制	授業形態	講義	総時間（単位）	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期

【授業の学習内容と心構え】

視能訓練士としての経験のある教員が授業を担当します。この分野の理解することで、斜視の検査、診断や治療に繋がる基礎となる部分です。「覚える」ことも多いですが、「考える」ことも忘れずに講義に臨むようにしてください。

【到達目標】

①眼球の解剖、外眼筋の解剖を理解し、そこから外眼筋の作用へ結びつけることが出来るようになる。
②斜視の基礎となる眼球運動やその法則を理解することが出来るようになる。
③正常両眼視機能を理解する。網膜正常対応と網膜異常対応を理解し、評価することが出来るようになる。

【使用教科書・教材・参考書】

視能学、視能矯正学
※調べ学習なども行う予定です。忘れずに持参してください。

【授業外における学習】

講義のはじめに小テストを行います。復習を必ず行うようにしてください。

回	授業概要
1	【授業単元】 外眼筋の種類と解剖 【授業形態】 講義 【到達目標】 眼球運動に関与している外眼筋についてまず名前を知る。また、それらがどこから始まり、どこで終わるのを知ることで、作用に結び付けられるようにする。
2	【授業単元】 外眼筋の作用と眼球運動① 【授業形態】 講義 【到達目標】 前回の解剖から作用を結びつけ考えられるようにする。また、各外眼筋がどの神経の支配を受け働いているのかを知る。
3	【授業単元】 外眼筋の作用と眼球運動② 【授業形態】 講義 【到達目標】 眼球運動とそれに関係している法則を理解できるようになる。
4	【授業単元】 外眼筋の作用と眼球運動③ 【授業形態】 講義 【到達目標】 眼球運動とそれに関係している法則を理解できるようになる。
5	【授業単元】 眼球運動検査 【授業形態】 講義 【到達目標】 眼球運動検査について知る。 ①Hess赤緑試験 ②Parks3step test
6	【授業単元】 輻湊・開散と屈折、調節、AC/A比① 【授業形態】 講義 【到達目標】 輻湊・開散がどんな運動かを理解し、検査法や障害を知る。
7	【授業単元】 輻湊・開散と屈折、調節、AC/A比② 【授業形態】 講義 【到達目標】 輻湊・開散がどんな運動かを理解し、検査法や障害を知る。
8	【授業単元】 中間試験・解答解説 【授業形態】 講義と試験 【到達目標】
9	【授業単元】 正常両眼視機能 【授業形態】 講義 【到達目標】 正常な両眼視の定義を知ることで、異常な両眼視を理解できるようにする。
10	【授業単元】 正常両眼視機能 【授業形態】 講義 【到達目標】 正常な両眼視の定義を知ることで、異常な両眼視を理解できるようにする。
11	【授業単元】 両眼視機能の異常 【授業形態】 講義 【到達目標】 異常な両眼視で起こることを理解すると共になぜ起きるのかを理解できるようになる。
12	【授業単元】 両眼視機能の異常 【授業形態】 講義 【到達目標】 異常な両眼視で起こることを理解すると共になぜ起きるのかを理解できるようになる。
13	【授業単元】 両眼視機能の異常 【授業形態】 講義 【到達目標】 異常な両眼視で起こることを理解すると共になぜ起きるのかを理解できるようになる。
14	【授業単元】 両眼視機能検査 【授業形態】 講義 【到達目標】 両眼視機能検査の種類について知る。
15	【授業単元】 定期試験・解答解説 【授業形態】 講義と試験 【到達目標】

【評価について】

中間試験（40点満点）
定期試験（60点満点）
※小テストも評価に含みます

【特記事項】

科目名（英）	基礎視能矯正学 （ Basic Orthoptics ）	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	鈴木 まゆ
学科・コース	視能訓練士科1年制	授業形態	講義	総時間（単位）	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 火曜日・金曜日 時限は不定期

【授業の学習内容と心構え】

視能訓練士として斜視や弱視の患者様と関わってきた経験のある教員が授業を担当します。この分野の理解することで、斜視の検査、診断や治療に繋がる基礎となる部分です。「覚える」ことも多いですが、「考える」ことも忘れずに講義に臨むようにしてください。

【到達目標】

①斜視について知り、分類することができる。
②斜視の病因・病態を知り、検査の結果などから斜視の型を推測すことができる。
③弱視の原因なる固視異常、斜視、屈折異常を理解することで、弱視の分類が出来るようになる。

【使用教科書・教材・参考書】

視能学、視能矯正学
（調べ学習なども行う予定です。必ず持参してください。）

【授業外における学習】

次の講義のはじめに小テストを実施します。復習を必ず行うようにしてください。

回	授業概要
16	【授業単元】 斜視の基礎 【授業形態】 講義 【到達目標】 斜視とは何か知り、斜視の種類を列挙できる。
17	【授業単元】 内斜視 【授業形態】 講義 【到達目標】 内斜視 内斜視の分類と病因・病態を理解する。 ①先天性内斜視（本態性乳児内斜視）
18	【授業単元】 内斜視 【授業形態】 講義 【到達目標】 内斜視 内斜視の分類と病因・病態を理解する。 ②後天性内斜視（調節性内斜視）
19	【授業単元】 内斜視 【授業形態】 講義 【到達目標】 内斜視 内斜視の分類と病因・病態を理解する。 ③後天性内斜視（非調節性内斜視）
20	【授業単元】 内斜視 【授業形態】 講義 【到達目標】 内斜視 内斜視の分類と病因・病態を理解する。 ③後天性内斜視（非調節性内斜視）
21	【授業単元】 外斜視 【授業形態】 講義 【到達目標】 外斜視 外斜視の分類と病因・病態を理解する。 ①恒常性外斜視
22	【授業単元】 外斜視 【授業形態】 講義 【到達目標】 外斜視 外斜視の分類と病因・病態を理解する。 ②間欠性外斜視
23	【授業単元】 中間試験・解答解説 【授業形態】 講義と試験 【到達目標】
24	【授業単元】 外斜視 【授業形態】 講義 【到達目標】 外斜視 外斜視の分類と病因・病態を理解する。 ③感覚性外斜視 ※偽斜視
25	【授業単元】 小児視力 【授業形態】 講義 【到達目標】 小児の視力特性と視力の発達を理解する。
26	【授業単元】 弱視分類 【授業形態】 講義 【到達目標】 弱視の起序と分類を知る。 弱視の分類①屈折異常弱視②不同視弱視を理解する。
27	【授業単元】 弱視分類 【授業形態】 講義 【到達目標】 弱視の分類③斜視弱視④微小斜斜視弱視を理解する。
28	【授業単元】 弱視分類 【授業形態】 講義 【到達目標】 弱視の分類⑤形態覚遮断弱視を理解する。 弱視診断に必要な検査を選択できる。
29	【授業単元】 心因性視覚障害 【授業形態】 講義 【到達目標】 心因性視覚障害を理解する。 弱視と心因性視覚障害の鑑別ができる。 弱視と心因性視覚障害の治療を理解する。
30	【授業単元】 定期試験・解答解説 【授業形態】 講義と試験 【到達目標】

【評価について】

中間試験（40点満点）
定期試験（60点満点）
※小テストも評価に含みます

【特記事項】

科目名（英）	生理光学 (Physiologic Optics)	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	吉川 幸里
学科・専攻	視能訓練士科1年制	授業形態	講義	総時間（単位）	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 月・火・金

【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】

視能訓練士の資格を有する現場経験のある教員が講義を担当する。
視能訓練士を目指すために、眼科検査、眼科医療機器の操作・測定に必要な光学の知識を習得する授業を行う。
講義授業のため、復習をしっかりして授業に臨んでほしい。

【到達目標】

様々な眼科機器による検査を行ううえで、機器の性質、検査データの評価ができる。
視覚器官の光学を学ぶことで、眼科検査（屈折検査、調節検査、眼球運動、両眼視検査）の基礎知識から専門的知識について説明ができる。

【使用教科書・教材・参考書】

視能学、屈折異常とその矯正
配布レジュメ

【授業外における学習】

次の講義のはじめに小テストを実施するため、必ず復習を行うこと。

回	授業概要
1	【授業単元】 光の性質について 【授業形態】 講義 【到達目標】 可視光線が電磁波のどこに分類されるか理解できる。 反射の法則、屈折の法則（Snellの法則）を説明できる。 干渉、回析、偏光、散乱を説明できる。
2	【授業単元】 レンズの種類とその働き、屈折力について ① 【授業形態】 講義 【到達目標】 面の屈折力、レンズの屈折力反射鏡の屈折力を計算できる。 球面レンズ、円柱レンズ、トーリックレンズの働きを説明できる。
3	【授業単元】 レンズの種類とその働き、屈折力について ② 【授業形態】 講義 【到達目標】 レンズの度数を4つの記載方法で表現できる。 レンズの6つの主要点について説明できる。 眼球の主要点の意味と位置を説明できる。
4	【授業単元】 物体と像の関係について ① 【授業形態】 講義 【到達目標】 Vergenceの式からレンズによる物体の位置や、像の位置が説明できる。 実像と虚像について説明できる。
5	【授業単元】 物体と像の関係について ② 【授業形態】 講義 【到達目標】 物体と像の作図ができる。 物体の倍率の計算ができる。 拡大鏡の倍率や度数を計算して求めることができる。
6	【授業単元】 屈折異常とその矯正について 【授業形態】 講義 【到達目標】 屈折異常と矯正に必要なレンズを説明できる。 眼鏡レンズからコンタクトレンズ度数を求めることができる。
7	【授業単元】 プリズムについて 【授業形態】 講義 【到達目標】 プリズム偏角の表し方（弧度法とΔ）の違いが分かる。 Prenticeの式を利用し、レンズのプリズム効果の計算ができる。 プリズムの合成の計算ができる。
8	【授業単元】 中間試験、解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 授業前半の振り返りを行う。
9	【授業単元】 検影法について 【授業形態】 講義 【到達目標】 検影法の原理を述べることができる。 検査手順、検査の利点・欠点が説明でき、検査結果の計算ができる。
10	【授業単元】 調節について 【授業形態】 講義 【到達目標】 調節力、明視域の計算ができる。 調節の光学的変化（屈折系の変化、焦点深度、偽調節）を関係付けて説明ができる。
11	【授業単元】 模型眼について、不同視・不等像視について 【授業形態】 講義 【到達目標】 Gullstrande模型眼の主な数値を述べることができる。 眼の軸と角度、Purkinje-Sanson像を説明できる。 レンズの拡大・縮小効果を説明できる。
12	【授業単元】 レンズの収差について 【授業形態】 講義 【到達目標】 Seidelの5収差を説明できる。 2種類の色収差を説明できる。 波面収差を説明できる。
13	【授業単元】 眼鏡、眼鏡レンズ、コンタクトレンズについて 【授業形態】 講義 【到達目標】 眼鏡レンズの素材や設計、眼鏡の構造について説明できる。 コンタクトレンズの種類と特徴について説明できる。 涙液レンズの効果の計算ができる。
14	【授業単元】 レンズの効果、眼内レンズ、屈折矯正手術について 【授業形態】 講義 【到達目標】 レンズによる拡大縮小効果や輻湊、調節について説明できる。 眼内レンズの決定に必要な検査を列挙できる。 屈折矯正手術の説明ができる。
15	【授業単元】 定期試験、解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 授業内容の振り返りを行う。

【評価方法について】

評価は筆記試験で行う。
筆記試験は、中間試験（40点）、定期試験（60点）の合計100点満点で評価する。
評価は学則規定に準ずる。

【特記事項】

毎授業において、教科書や配布レジュメを持参すること。

科目名（英）	視能矯正学実習 (Practical Training in Orthoptics)	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	石井 滋人 水野 夕季
学科・コース	視能訓練士科1年制	授業形態	実習	総時間（単位）	30時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 木曜日 1～3時限

【授業の学習内容と心構え】

視能訓練士としての現場経験を重ねた教員が超音波検査、電気生理学的検査、コンタクトレンズ処方の意義・目的と各検査法についての原理・評価方法を教える。またケーススタディを通して、各種検査の異常所見、検査の実際など、臨床で役立つ知識を丁寧に指導する。
自分が臨床の現場に立つ事を常に意識して、なぜ？どうして？とその理由を考えながら取り組む事が大切である。

【到達目標】

超音波検査、電気生理学的検査、コンタクトレンズ処方の意義・目的を学び、各検査法について原理・評価法が説明できる。
特に下記の2点を意識して取り組み、実践できる。
①臨床現場に向けて「ケーススタディ」を通して各症例への対応、評価方法を習得する。
②視能訓練士として必要不可欠な「電気生理学的検査」の原理、検査手技を習得する。

【使用教科書・教材・参考書】

〔教科書〕 眼科検査ガイド、視能学、現代の眼科学、眼科用語集
〔教材・参考書〕プリント資料

【授業外における学習】

お互いに患者様になりきり、外来の現場を想定した患者接遇シミュレーションを繰り返し行うこと。

回	授業概要
1	【授業単元】 2グループに分かれ以下内容を学ぶ。(3コマ交代) ① ・超音波検査(Aモード・Bモード) ・電気生理学的検査(ERG) ・コンタクトレンズ処方 ②ケーススタディ ・斜視、弱視 ・眼疾病
2	【授業形態】講義、実習、演習
3	【到達目標】 各検査法の対象疾患、原理、検査説明、検査手技、評価方法を理解し、説明できる。
4	
5	
6	
7	
8	
9	【授業単元】 2グループに分かれ前回学んだ①②の実習、演習(3コマ交代) 【授業形態】実習、演習
10	【到達目標】 課題を通して、各検査法の説明・手技を繰り返し実習し、検査、操作ができる。
11	
12	
13	
14	
15	復習と定期試験、解説

【評価について】

〔定期試験〕(100点満点)
実施方法：筆記試験100点分で評価する。

評価は学則規定に準ずる。

【特記事項】

科目名（英）	眼科薬理学 (Ophthalmic Pharmacology)	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	小坂　好男
学科・コース	視能訓練士科1年制	授業形態	講義	総時間（単位）	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 水曜日　3・4時限

【授業の学習内容と心構え】

大学病院そして眼科専門病院に勤務した薬剤師として、全ての患者さんに適正な薬物療法を提供・実践してきた経験を生かして、視能訓練士が扱う医薬品の医療安全確保のための知識を養うべく学習を講義します。耳学ばかりではなく、時には実際に手に取り身体で覚える授業を取り入れる予定です。

【到達目標】

薬理学とは何を研究する学問か、また投与された薬物がどの様に作用して効果が発現するのか理解できる

【使用教科書・教材・参考書】

点眼薬クリニカルブック、講義用レジュメ

【授業外における学習】

回	授業概要	回	授業概要
1	【授業単元】 薬理学とは 【授業形態】 講義　パワーポイント使用　PC 【到達目標】 薬理学とは何を研究する学問か、また投与された薬物が最終的にどの様に作用し発現されるかが理解できる		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】
2	【授業単元】 自律神経、点眼剤の問題点他 【授業形態】 講義　パワーポイント使用　PC 【到達目標】 生命維持に大切な自律神経の構成と刺激作用の違いが言える。また点眼薬の仕組み・目的・種類・組成が言える		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】
3	【授業単元】 自律神経薬・点眼試験 【授業形態】 講義　パワーポイント使用　PC 【到達目標】 検査薬・治療薬に使用される瞳孔薬の作用機序、種類、注意すべき点が言える。点眼試験の目的・種類・が言える		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】
4	【授業単元】 局所麻酔薬・角膜保護薬・治癒促進薬 【授業形態】 講義　パワーポイント使用　PC 【到達目標】 末梢神経系作用薬（局所麻酔薬）、角膜保護薬、治癒促進薬の薬理作用が理解でき、注意すべき点が言える		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】
5	【授業単元】 緑内障の概念・定義・発現機序・分類 【授業形態】 講義　パワーポイント使用　PC 【到達目標】 緑内障とはどの様な疾患であるかきちんと説明できる		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】
6	【授業単元】 緑内障の治療・薬物療法の眼圧下降機序 【授業形態】 講義　パワーポイント使用　PC 【到達目標】 現在使用されている緑内障治療薬の種類とその違い（作用機序など）を説明できる		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】
7	【授業単元】 眼感染症及び抗生物質（抗菌薬） 【授業形態】 講義　パワーポイント使用　PC 【到達目標】 眼感染症を理解し抗生物質の種類、作用点の違い（作用機序など）・注意すべき点が言える		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】
8	【授業単元】 定期試験、解説 【授業形態】 【到達目標】 自律神経系及び緑内障治療薬を中心とした4択・穴埋め問題 筆記試験60分		【評価について】 定期試験（筆記試験）　100点

【特記事項】

講義においてノートを丁寧に取ること

科目名（英）	視能検査学実習 (Practical Training of Orthoptic Examinations)	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	鈴木　まゆ 小川　久実
学科・コース	視能訓練士科1年制	授業形態	実習	総時間（単位）	60時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 月曜日　3・4時限

【授業の学習内容と心構え】

視能訓練士として現場経験を重ねた教員が眼位・眼球運動検査、立体視検査、大型弱視鏡検査、レンズメーター、角膜形状解析の意義・目的と各検査法についての原理・評価方法を教える。また、豊富な臨床経験を活かし、患者様への誘導・検査説明など外来で必要な患者接遇も含めて丁寧に指導する。
9月からの臨地実習に向けて、実習生として最低限必要な知識・技術・患者対応を学ぶ。自分が臨床の現場に立つ事を常に意識して、なぜ？どうして？とその理由を考えながら取り組む事が大切である。

【到達目標】

眼位・眼球運動検査、立体視検査、大型弱視鏡検査、レンズメーター、角膜形状解析の意義・目的を学び、各検査法について原理・評価法が説明できる。
特に下記の2点を意識して取り組み、実践できる。
①臨地実習に向けて「レンズメーター」の患者対応、検査手技、評価方法を習得する。
②視能訓練士として必要不可欠な「眼位・眼球運動検査」の原理、検査手技を習得する。

【使用教科書・教材・参考書】

〔教科書〕 眼科検査ガイド、視能学、現代の眼科学、眼科用語集
〔教材・参考書〕プリント資料

【授業外における学習】

お互いに患者様になりきり、外来の現場を想定した患者接遇シミュレーションを繰り返し行うこと。

回	授業概要
1・2 3・4 5・6 7・8 9・10 11・12 13・14	【授業単元】 2グループに分かれて以下の内容を学ぶ。(2コマ交代) ① ・眼位検査(定性、定量) ・診断的向き眼位検査 ・立体視検査 ・大型弱視鏡検査(9方向眼位含む) ② ・レンズメーター(単焦点、累進) ・スペキュラーマイクロスコープ ・角膜トポグラフィー ・HESS赤緑試験 ・注視野 【授業形態】講義、実習 【到達目標】 各検査法の対象疾患、原理、検査説明、検査手技、評価方法を理解し、説明できる。
15・16 17・18 19・20 21・22 23・24	【授業単元】 2グループに分かれて前回学んだ①②の実習(2コマ交代) 【授業形態】実習 【到達目標】 課題を通して、各検査法の説明・手技を繰り返し実習し、測定、操作ができる。

回	授業概要
25 26 27	(15～27回)
28・29	実技試験 ※実技試験の内容＆筆記試験の日程については別途お知らせします。
30	復習と定期試験、解説

【評価について】

〔定期試験〕(100点満点)
実施方法：実技試験＆筆記試験の合計100点分で評価する。

評価は学則規定に準ずる。

【特記事項】

科目名（英）	視能検査学Ⅰ （Orthoptic Examinations Ⅰ）	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	石井　滋人
学科・コース	視能訓練士科1年制	授業形態	講義	総時間（単位）	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 木曜日　4時限

【授業の学習内容と心構え】
視能訓練士として現場経験があり、1年制課程にも13年間携わってきた教員が、各種疾患の診断に必要な検査法の種類・原理・臨床所見を教える。またワークシート等を解きながら、必要なポイントを確認・整理する。

【到達目標】
視能訓練士が関わる各種疾患を鑑別するために必要な検査法を選択し、結果の判読および鑑別診断の手順や流れを理解することが出来る。

【使用教科書・教材・参考書】
現代の眼科学、視能学、眼科検査ガイド

【授業外における学習】
ワークシートを中心に復習し、ポイントの整理を行うこと。

回	授業概要
1	【授業単元】涙液分泌の検査 【授業形態】講義 【到達目標】 シルマー試験、綿糸法、涙液層破壊時間（BUT）、涙液メニスカスについての原理・臨床所見が説明できる。
2	【授業単元】涙道の検査 【授業形態】講義 【到達目標】 フルオレセイン点眼試験、通水試験、涙道造影、涙道内視鏡についての原理・臨床所見が説明できる。
3	【授業単元】角膜の検査① 【授業形態】講義 【到達目標】 細隙灯顕微鏡検査（5種）、色素点眼（上皮欠損の観察）についての原理・臨床所見が説明できる。
4	【授業単元】角膜の検査② 【授業形態】講義 【到達目標】 角膜形状解析、波面センサー、角膜知覚、スペキュラーマイクロスコープ、角膜厚についての原理・臨床所見が説明できる。
5	【授業単元】白内障の検査 【授業形態】講義 【到達目標】 術前検査（スペキュラー、Aモード、ケラトメーター）についての原理・臨床所見が説明できる。
6	【授業単元】緑内障の検査① 【授業形態】講義 【到達目標】 視神経乳頭の検査（眼底写真、C／D比、OCT）についての原理・臨床所見が説明できる。
7	【授業単元】緑内障の検査② 【授業形態】講義 【到達目標】 視野検査（静的・動的）、隅角検査、眼圧検査についての原理・臨床所見が説明できる。
8	【授業単元】復習と試験、解説 【授業形態】講義 【到達目標】 まとめと中間試験
9	【授業単元】網膜の検査① 【授業形態】講義 【到達目標】 眼底検査法（直像鏡、倒像鏡、細隙灯顕微鏡）についての原理・臨床所見が説明できる。
10	【授業単元】網膜の検査② 【授業形態】講義 【到達目標】 眼底写真撮影法についての原理・臨床所見が説明できる。
11	【授業単元】網膜の検査③ 【授業形態】講義 【到達目標】 蛍光眼底造影検査法（FAG、ICG）についての原理・臨床所見が説明できる。
12	【授業単元】網膜の検査④ 【授業形態】講義 【到達目標】 光干渉断層計（OCT）についての原理・臨床所見が説明できる。
13	【授業単元】網膜の検査⑤ 【授業形態】講義 【到達目標】 電気生理学的検査（網膜電図（ERG））、超音波Bモード検査法についての原理・臨床所見が説明できる。
14	【授業単元】網膜の検査⑥ 【授業形態】講義 【到達目標】 電気生理学的検査（眼球電位図（EOG））、暗順応検査についての原理・臨床所見が説明できる。
15	【授業単元】復習と定期試験、解説 【授業形態】講義 【到達目標】 まとめと定期試験

【特記事項】

【評価について】
〔小テスト〕（20点満点）
次回の授業冒頭に実施

〔中間試験〕（40点満点）
実施方法：筆記試験

〔定期試験〕（40点満点）
実施方法：筆記試験

評価は学則規定に準ずる。

科目名（英）	神経眼科学 (Neuro-ophthalmology)	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	小川　久実
学科・専攻	視能訓練士科1年制	授業形態	講義	総時間（単位）	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 月曜日 1・2時限

【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】

視能訓練士として臨床経験を積んだ教員が眼に関わる脳神経や視覚伝導路、対光反応、眼球運動経路、またそれに関係する疾患に関して教える。
前半では正常な神経路やそれに伴う解剖や名称を学ぶ。
後半では神経路のどの部位が障害されるとどのような疾患が発症するか、その疾患の眼所見、全身所見を学ぶ。

【到達目標】

神経の仕組みを理解し、眼症状から障害の部位を推測できる、検査技術と知識を結びつけて考えられるようにすること。
そのためにまずは正常な経路を把握しどの部位の障害でどんな疾患が発症するのか、個々の疾患をただ暗記するのではなくそれぞれの神経や部位がどんな役割を果たしているかを、図をイメージして理解できるようにすること。

【使用教科書・教材・参考書】

神経眼科診療のてびき、視能学、視能矯正学、現代の眼科学など

【授業外における学習】

授業後にレジュメを見直し、教科書を読むことでイメージをふくらますこと
小テストで間違えた部分はしっかり復習すること

回	授業概要
1	【授業単元】 神経眼科とは 【授業形態】 講義 【到達目標】 神経眼科で学ぶ内容とイメージを理解する 感覚受容器と神経の関係について 眼に関わる脳神経を学ぶ
2	【授業単元】 視覚伝導路 【授業形態】 講義 【到達目標】 光情報が視中枢に至るまでの経路を理解する 視細胞と神経線維の走行に関して
3	【授業単元】 視神経 【授業形態】 講義 【到達目標】 視神経の構造などについて学ぶ
4	【授業単元】 対光反射 【授業形態】 講義 【到達目標】 瞳孔に関わる神経の経路を学ぶ 縮瞳と散瞳に関わる神経や筋肉に関して
5	【授業単元】 眼球運動① 【授業形態】 講義 【到達目標】 眼球運動に関わる脳神経とともに、神経核の場所や走行を知り、外眼筋までの走行路を学ぶ
6	【授業単元】 眼球運動② 【授業形態】 講義 【到達目標】 眼球運動に関わる脳神経とともに、神経核の場所や走行を知り、外眼筋までの走行路を学ぶ
7	【授業単元】 眼振① 【授業形態】 講義 【到達目標】 生理的眼振について学ぶ
8	【授業単元】 中間試験、解答解説 【授業形態】 【到達目標】 正常な視覚伝導路、対光反射、眼球運動を把握する
9	【授業単元】 視路の障害 【授業形態】 講義 【到達目標】 視覚伝導路の各部位で障害が起きた場合の視野障害、関連疾患について学ぶ
10	【授業単元】 視神経疾患 【授業形態】 講義 【到達目標】 視神経疾患について学ぶ
11	【授業単元】 瞳孔異常 【授業形態】 講義 【到達目標】 対光反応路、散大路の各部位で障害が起きた場合の症状、関連疾患について学ぶ
12	【授業単元】 眼球運動障害① 【授業形態】 講義 【到達目標】 核上性眼球運動障害に関して学ぶ
13	【授業単元】 眼球運動障害② 【授業形態】 講義 【到達目標】 核、核下性眼球運動障害に関して その他の眼球運動障害に関して学ぶ
14	【授業単元】 眼振② 【授業形態】 講義 【到達目標】 病的眼振について学ぶ
15	【授業単元】 定期試験、解答解説 【授業形態】 【到達目標】 各疾患の障害部位や特徴をしっかりと把握すること

【評価方法について】

評価は筆記試験で行う。
中間試験：40点
定期試験：60点
合計100点満点で評価する。
評価は学則規定に準ずる。

【特記事項】

科目名（英）	眼疾病学 (Ophthalmic Diseases)	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	石井　滋人
学科・コース	視能訓練士科1年制	授業形態	講義	総時間（単位）	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 木曜日　4時限

【授業の学習内容と心構え】
視能訓練士として現場経験があり、1年制課程にも13年間携わってきた教員が、視能訓練士として必要な眼疾患の発生機序と臨床所見を教える。またワークシート等を解きながら、必要なポイントを整理・確認する。

【到達目標】
視能訓練士が関わる眼疾患を中心にその病因と病態を理解し、必要な検査法の選択および鑑別診断をすることが出来る。

【使用教科書・教材・参考書】
現代の眼科学、視能学、眼科検査ガイド

【授業外における学習】
ワークシートを中心に復習し、ポイントの整理を行うこと。

回	授業概要
1	【授業単元】涙器疾患① 【授業形態】講義 【到達目標】 涙腺の解剖を理解し、その疾患についての病因・病態が説明できる。
2	【授業単元】涙器疾患② 【授業形態】講義 【到達目標】 涙道の解剖を理解し、その疾患についての病因・病態が説明できる。
3	【授業単元】眼瞼疾患 【授業形態】講義 【到達目標】 眼瞼の解剖を理解し、その疾患についての病因・病態が説明できる。
4	【授業単元】角膜疾患① 【授業形態】講義 【到達目標】 角膜の解剖を理解し、その病像が説明できる。
5	【授業単元】角膜疾患② 【授業形態】講義 【到達目標】 角膜感染症、円錐角膜、角膜腫瘍などについての病因、病態が説明できる。
6	【授業単元】結膜疾患 【授業形態】講義 【到達目標】 結膜の解剖を理解し、その疾患についての病因・病態が説明できる。
7	【授業単元】強膜疾患 【授業形態】講義 【到達目標】 強膜の解剖を理解し、その疾患についての病因・病態が説明できる。
8	【授業単元】復習と中間試験、解説 【授業形態】講義 【到達目標】 まとめと中間試験
9	【授業単元】水晶体疾患 【授業形態】講義 【到達目標】 水晶体の解剖を理解し、その疾患についての病因・病態が説明できる。
10	【授業単元】緑内障① 【授業形態】講義 【到達目標】 緑内障の病因・病態が説明できる。
11	【授業単元】緑内障② 【授業形態】講義 【到達目標】 緑内障の病型分類が説明できる。
12	【授業単元】網膜疾患① 【授業形態】講義 【到達目標】 網膜の解剖を理解し、その病像が説明できる。
13	【授業単元】網膜疾患② 【授業形態】講義 【到達目標】 血管閉塞性疾患、糖尿病網膜症、夜盲疾患、黄斑疾患についての病因、病態が説明できる。
14	【授業単元】ぶどう膜疾患 【授業形態】講義 【到達目標】 ぶどう膜の解剖を理解し、その疾患についての病因・病態が説明できる。
15	【授業単元】復習と定期試験、解説 【授業形態】講義 【到達目標】 まとめと定期試験

【特記事項】

【評価について】
〔小テスト〕(20点満点)
次回の授業冒頭に実施

〔中間試験〕(40点満点)
実施方法：筆記試験

〔定期試験〕(40点満点)
実施方法：筆記試験

評価は学則規定に準ずる。

科目名（英）	生理光学実習 (Practical Training in Visual Physiology)	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	石井 滋人 水野 夕季
学科・コース	視能訓練士科1年制	授業形態	実習	総時間（単位）	60時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 木曜日 1～3時限

【授業の学習内容と心構え】

視能訓練士としての現場経験を重ねた教員が視力・屈折検査、眼圧検査、静的視野検査の意義・目的と各検査法についての原理・評価方法を教える。また、豊富な臨床経験を活かし、患者様への誘導・検査説明など外来で必要な患者接遇も含めて丁寧に指導する。
9月からの臨地実習に向けて、実習生として最低限必要な知識・技術・患者対応を学ぶ。自分が臨床の現場に立つ事を常に意識して、なぜ？どうして？とその理由を考えながら取り組む事が大切である。

【到達目標】

視力・屈折検査、眼圧検査、静的視野検査の意義・目的を学び、各検査法について原理・評価法が説明できる。
特に下記の2点を意識して取り組み、実践できる。
①臨地実習に向けて「ハンフリー自動視野計」の患者対応（誘導・検査説明）、検査手技、評価方法を習得する。
②視能訓練士として必要不可欠な「視力・屈折検査」の原理、検査手技を習得する。

【使用教科書・教材・参考書】

〔教科書〕 眼科検査ガイド、視能学、現代の眼科学、眼科用語集
〔教材・参考書〕プリント資料

【授業外における学習】

お互いに患者様になりきり、外来の現場を想定した患者接遇シミュレーションを繰り返し行うこと。

回	授業概要
1～3	【授業単元】 2グループに分かれ以下内容を学ぶ。(3コマ交代) ① ・瞳孔間距離測定（三田式） ・視力検査の種類（検査の方法と対象） ・遠見視力測定（裸眼・眼鏡） ・自覚的視力屈折検査（クロスシリンダー）
4～6	② ・屈折検査（オートレフラクトメーター） ・眼圧検査（ノンコンタクトトノメーター） ・静的視野検査（ハンフリー自動視野計） 【授業形態】講義、実習 【到達目標】 各検査法の対象疾患、原理、検査説明、検査手技、評価方法を理解し、説明できる。
7～9	
10～12	
13～15	【授業単元】 2グループに分かれて前回学んだ①②の実習（3コマ交代） 【授業形態】実習 【到達目標】 課題を通して、各検査法の説明・手技を繰り返し実習し、測定、操作ができる。
16～18	

回	授業概要
	(13～27回)
19～21	
22～24	
25～27	
28・29	実技試験 ※実技試験の内容＆筆記試験の日程については別途お知らせします。
30	復習と定期試験、解説

【評価について】

〔定期試験〕(100点満点)
実施方法：実技試験＆筆記試験の合計100点分で評価する。

評価は学則規定に準ずる。

【特記事項】

科目名（英）	視能訓練学 (Orthoptics)	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	常盤　純子
学科・専攻	視能訓練士科1年制	授業形態	講義	総時間（単位）	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 火曜日　1・2時限

【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】

視能訓練士として大学病院で経験を積み、視機能療法の研究に携わってきた教員が、斜視の病因・病態の授業を担当する。また、各斜視に適応となる術式を教える。
視能矯正学の基本的な知識が身についている上での治療の授業になるので、視能矯正学の復習が大事になる。

【到達目標】

斜視の病因・病態を理解し、鑑別・分類ができる。
各斜視に合わせた外眼筋手術を選択できる。

【使用教科書・教材・参考書】

視能学、視能矯正学、配布資料等

【授業外における学習】

視能矯正学を復習して授業に臨んでほしい。

回	授業概要
1	【授業単元】特殊斜視 【授業形態】講義 【到達目標】 特殊斜視の病因・病態を述べられる。 ①AV型斜視 ②交代性上斜位
2	【授業単元】特殊斜視 【授業形態】講義 【到達目標】 特殊斜視の病因・病態を述べられる。 ③微小斜視
3	【授業単元】筋原性斜視 【授業形態】講義 【到達目標】 筋原性斜視の病因・病態を述べられる。 ①重症筋無力症 ②慢性進行性外眼筋麻痺
4	【授業単元】筋原性斜視 【授業形態】講義 【到達目標】 筋原性斜視の病因・病態を述べられる。 ③甲状腺眼症 ④外眼筋炎
5	【授業単元】筋原性斜視 【授業形態】講義 【到達目標】 筋原性斜視の病因・病態を述べられる。 ⑤General fibrosis syndrome ⑥Brown症候群 ⑦固定内斜視
6	【授業単元】機械的斜視 【授業形態】講義 【到達目標】 ⑧sagging eye syndrome 機械的斜視の病因・病態を述べられる。 ①眼窩壁骨折
7	【授業単元】その他の斜視 【授業形態】講義 【到達目標】 その他の斜視の病因・病態を述べられる。 ①Duane症候Ⅰ～Ⅲ型
8	【授業単元】外眼筋手術 【授業形態】講義 【到達目標】 外眼筋手術に必要な解剖を述べられる。 外眼筋手術の目的・適応を述べられる。
9	【授業単元】外眼筋手術 【授業形態】講義 【到達目標】 斜視手術の目的・原理・方法を述べられる。 弱化術、強化術、移動術の種類と適応を述べられる。
10	【授業単元】外眼筋手術 【授業形態】講義 【到達目標】 弱化術、強化術、移動術の方法と適応を述べられる。
11	【授業単元】外眼筋手術 【授業形態】講義 【到達目標】 特殊斜視の術式を理解し選択できるようになる。
12	【授業単元】外眼筋手術 【授業形態】講義 【到達目標】 麻痺性斜視の術式を理解し選択できるようになる。
13	【授業単元】外眼筋手術 【授業形態】講義 【到達目標】 眼振手術を理解し選択できるようになる。
14	【授業単元】外眼筋手術 【授業形態】講義 【到達目標】 斜視手術の合併症を述べられる。
15	【授業単元】定期試験、解説 【授業形態】講義 【到達目標】 学んだ内容が定着できている。

【評価方法について】

評価は小テスト（30点）と筆記試験（70点）合計100点満点で行う。
授業内で確認した専門的知識の理解、定着度を確認する。
評価は学則規定に準ずる。

【特記事項】

毎回小テストを行う。

科目名（英）	視能訓練学実習 (Practical Training in Visual Orthoptics)	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	越後貫 滋子 石井 滋人、水野 夕季
学科・コース	視能訓練士科1年制	授業形態	実習	総時間（単位）	60時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 木曜日 1～3時限

【授業の学習内容と心構え】

視能訓練士としての現場経験を重ねた教員が両眼視機能検査、自覚的視力屈折検査、画像検査、検影法、動的視野検査の意義・目的と各検査法についての原理・評価方法を教える。また、豊富な臨床経験を活かし、患者様への誘導・検査説明など外来で必要な患者接遇も含めて丁寧に指導する。
9月からの臨地実習に向けて、実習生として最低限必要な知識・技術・患者対応を学ぶ。自分が臨床の現場に立つ事を常に意識して、なぜ？どうして？とその理由を考えながら取り組む事が大切である。

【到達目標】

両眼視機能検査、自覚的視力屈折検査、画像検査、検影法、動的視野検査の意義・目的を学び、各検査法について原理・評価法が説明できる。
特に下記の2点を意識して取り組み、実践できる。
①臨地実習に向けて「動的視野検査」の患者対応（誘導・検査説明）、検査手技、評価方法を習得する。
②視能訓練士として必要不可欠な「両眼視機能検査」の原理、検査手技を習得する。

【使用教科書・教材・参考書】

〔教科書〕 眼科検査ガイド、視能学、現代の眼科学、眼科用語集
〔教材・参考書〕プリント資料

【授業外における学習】

お互いに患者様になりきり、外来の現場を想定した患者接遇シミュレーションを繰り返し行うこと。

回	授業概要
1～3	【授業単元】 3グループに分かれて以下の内容を学ぶ。(3コマ交代) ①〔両眼視機能検査〕 ・Whorth 4dot test ・Bagolini SG ・Double rod test ・4△Base out test ・After image test ・Coordinator 〔AC/A比〕
4～6	② ・自覚的視力屈折検査（乱視表） ・検影法 〔画像検査〕 ・眼底写真 ・OCT
7～9	③ ・動的視野検査（Goldmann視野計） ・異常視野（GP） 【授業形態】講義、実習 【到達目標】 各検査法の対象疾患、原理、検査説明、検査手技、評価方法を理解し、説明できる。
10～12	
13～15	【授業単元】 3グループに分かれて前回学んだ①～③の実習（3コマ交代） 【授業形態】実習 【到達目標】 課題を通して、各検査法の説明・手技を繰り返し実習し、測定、操作ができる。
16～18	

回	授業概要
	(13～27回)
19～21	
22～24	
25～27	
28・29	実技試験 ※実技試験の内容＆筆記試験の日程については別途お知らせします。
30	復習と定期試験、解説

【評価について】

〔定期試験〕(100点満点)
実施方法：実技試験＆筆記試験の合計100点分で評価する。

評価は学則規定に準ずる。

【特記事項】

科目名（英）	実習前教育 (Clinical Practice)	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	徳岡 健男・塚山 大成
学科・コース	視能訓練士科1年制	授業形態	※実習（講義・演習）	総時間（単位）	45時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 月曜日・水曜日 1・2時限

【授業の学習内容と心構え】
流通・サービスの分野で実務を、専門学校の教員として教科指導、就職指導を経験した教員が、実習前教育および就職活動にあたり、知っておくべきルール・マナーを習得するための授業である。具体的には自己紹介書、履歴書、実習報告書などの書き方を学ぶ。ポイントを整理して理解することができる授業である。授業実施後には、自信をもって実習に取り組み、また就職活動に取り組み成果を出せるレベルに到達することができる。
また臨地実習を前に、有意義な実習が行えるよう、その目的・目標を明確にし、眼科外来で必要なDO NOTを学ぶ。

【到達目標】
実習先に提出する自己紹介書の書き方のポイントを理解し、分かり易く丁寧な書類が作成できる。
一般教養試験（SPI試験）の範囲と小論文試験の書き方の留意点を理解し、就職活動において成果を出すことができる。
自己PR、志望動機を分かり易く伝えるための文章を書くことができ、応用として実習報告書が作成できる。
実習生としての立場で必要な「患者様接遇」「指導者へのマナー」が実践できる。

【使用教科書・教材・参考書】
オリジナル教材
公務員試験過去問題

【授業外における学習】
毎回、課題を出します。自主的に学習計画を立て、着実に計画を実行することを期待する。

回	授業概要
1・2（塚山）	【授業単元】 オリエンテーション 【授業形態】 演習・講義 【到達目標】 学校ルールや授業を受けていく準備を行う。
3・4（徳岡）	【授業単元】 文章の書き方 【授業形態】 演習・講義 【到達目標】 わかり易い文章の書き方を理解し、起承転結のある文章が作成できる。
5・6（徳岡）	【授業単元】 履歴書・自己紹介書の書き方 【授業形態】 演習・講義 【到達目標】 自己PR、志望動機をまとめ、履歴書を完成させる。
7（塚山）	【授業単元】 認知特性 【授業形態】 演習・講義 【到達目標】 自身の認知特性を調べて、自身に合った学習方法を理解する。
8・9（徳岡）	【授業単元】 就職活動対策① 【授業形態】 演習・講義 【到達目標】 筆記試験の内容を理解し、短大・大卒レベルの問題が解ける。また、800字程度の小論文が書ける。
10（塚山）	【授業単元】 視能訓練士を目指す① 【授業形態】 演習・講義 【到達目標】 実習生として必要不可欠なコミュニケーションスキル（対人援助）とレジリエンス力が説明できる。
11・12（徳岡）	【授業単元】 面接試験対策 【授業形態】 演習・講義 【到達目標】 就職のための面接試験について、内容を知り準備する。面接試験の所作をロールプレイングで実践できる。
13・14（徳岡）	【授業単元】 就職活動対策② 【授業形態】 演習・講義 【到達目標】 就職や実習に向けた姿勢・モチベーションを身につける。
15（塚山）	【授業単元】 視能訓練士を目指す② 【授業形態】 演習・講義 【到達目標】 患者接遇とチーム医療（患者さま第一の考え方）を説明できる。
16（塚山）	【授業単元】 自己紹介書 【授業形態】 演習・講義 【到達目標】 自己紹介書を完成させる。
17（塚山）	【授業単元】 JWEBの活用 【授業形態】 演習・講義 【到達目標】 JWEBの登録と活用方法を理解する。
18（塚山）	【授業単元】 実習定期券説明 【授業形態】 講義 【到達目標】 実習への定期券申請の方法を理解する。
19（塚山）	【授業単元】 実習ノート 【授業形態】 演習・講義 【到達目標】 実習ノートの書き方を理解し、作成する事ができる。
20・21（塚山）	【授業単元】 実習直前指導 【授業形態】 演習・講義 【到達目標】 実習マニュアルの読み合わせを行い、実習内容を理解する。
22・23（塚山）	【授業単元】 実習直前指導 【授業形態】 講義 【到達目標】 病院実習中の注意事項、行動について考える。実例から問題を提起をし、その対処法を説明できる。

【特記事項】
マナーとして、挨拶を徹底して行う。日常の生活からお辞儀や挨拶を励行し、いつも自然に「明るく元気でさわやかに」を意識して過ごすこと。

【評価について】
与えられた課題を作成し合計100点満点で評価する。
詳細は、学則規定に準ずる。